

恵解山古墳

恵解山古墳は、5 世紀前半に築造された墳墓（古墳）です。当時のこのような建造物は、天皇や貴族、氏族の指導者、またはその他の有力者の墓として造られました。恵解山古墳は京都府の乙訓地域最大の前方後円墳であり、有力者の墓所であると考えられています。1980 年に古墳内から数百点の鉄製武器が発見され、1981 年に恵解山古墳は国の史跡に指定されました。2003 年から発掘調査が始まり、古墳の修復・維持計画が策定・実施されました。2014 年、遺跡を保存し墳丘とその歴史に関する情報を提供し、さらにコミュニティのレクリエーションエリアとして機能する史跡公園として開設されました。

特徴

三階層の墳丘は長さ約 128 メートルです。後円部は直径 78.6 メートル、高さ 10.4 メートルで、前方部の幅は 78.6 メートル、高さは 7.6 メートルです。古墳はかつて堀で囲まれ、石で覆われ、埴輪と呼ばれる儀式用の土製品が並べられていました。古墳の西側にある長方形のエリアは、おそらく葬儀や儀式に使用されたと考えられます。後円部には石室が存在すると考えられていますが、頂上には墓地があるため、この部分は全面的には発掘されていません。

副葬品およびその他の出土物

1980 年、頂上にある墓地拡張の準備中に、約 700 個の鉄製武器で満たされた長い木箱が古墳の前方部分から発見されました。そのうち、剣や槍、さまざまな矢尻、そして刃物がありました。京都府内では唯一の発見例で、全国的にも極めて珍しいものです。近くでは斧や鎌、鍬などの鉄製の農具が多数発見されました。出土した複数の埴輪の多くは円筒形で、古墳の境界線に沿って柵のように並べられていました。その他には、埋葬された人の快適さを考慮した品物（家、船、きぬがさ）や防御のための武器（盾、鎧、矢筒）、そして動物（水鳥や鶏）のような形をしたものもありました。鉄製武器などの出土品は 1999 年に京都府の有形文化財に指定されました。

恵解山古墳公園

推定の原形に復元された恵解山古墳の周囲には、緑豊かで広々とした公園が整備されています。前方部分の基部近くには、墳丘の特徴を解説した模型と、乙訓地域にある古墳をすべて掲載した地図が設置されています。古墳と西側の祭祀場には多数の埴輪のレプリカが並び、遺跡の 5 世紀前半の様子を再現しています。墳丘の正面と側面には階段が設けられているので訪問者は各階層を登り、公園や周囲の街並みの広大な景色を眺めることができます。古墳の頂上には、出土した鉄製武器の実物大の写真があり、その地で重要な発見があったことを示しています。